

【別紙様式 = 小学校用】

都道府県番号	13
都道府県名	東京都

【 】

学校名及び規模

東京都 文京区立 駕籠町小学校								
	1年	1年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	6	9
児童数	27	20	23	15	19	18	122	

研究の概要

(1) 研究主題

まなび みがき かがやく子 (一人一人を生かす算数指導の工夫)

(2) 研究主題設定の趣旨

指導者の体制から考慮して、「すくすく」(補充・定着)「ぐんぐん」(定着・発展)の二つのコースに分かれて習熟度別指導を行った。低学年では部分的に取り入れたが、中・高学年では一斉指導と習熟度別学習とを単元に応じて取り入れ、児童自身に選択させるようにした。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

- ・ 研究推進委員会を置き研究の方向を探るとともに、講演会・研究授業等の企画・運営をする。
- ・ 研究授業により、一人一人の子どもの変容をとらえ、研究をまとめ、研究成果を普及する。

(2) 研究の実際

- ・ 児童の実態把握の結果を指導に生かし、指導方法の改善に努める。
- ・ 児童の意欲や理解度に合わせ習熟度別学習につなげるとともに、その学習形態のあり方について探究する。
- ・ 学びの定着を確かめ指導に生かす評価の工夫
(教師による評価、指導内容に関する診断的評価、ノートから評価、授業中の反応による評価
児童自身による評価、意欲・興味・関心の傾向・成就感の把握)

(3) 研究の成果と課題

【成果】

一人一人の実態を把握し、つまずきの予想を立て指導計画を練ることにより、確かな理解と定着を図ることができた。

多様な方法で解決することにより、まなぶ楽しさを感じることができるようになった。(児童へのアンケートによる。)

毎月1回の参観日・及び年度末の学校評価(外部評価)のアンケートには、一人一人のペースに合わせた学習の様子や意欲的に授業に参加していることを評価する保護者の声が寄せられている。

コース別の指導により、自己評価力が向上し、達成感を味わえるようになった。

【課題】

数学的な思考力を伸ばす指導の工夫をさらに進める。

補充問題及び発展問題の開発を進める。

T Tの講師との事前事後の打ち合せの時間を確保する。

評価の方法について、より具体的な工夫をし、指導に反映させることができるようにする。

(4) 研究成果の普及と方策

研究成果については、リーフレットを作成し、区内幼小中学校および校内の保護者に配布し、普及を図った。

ホームページ作成(フロンティアスクールとしての情報を記載し、本年度の中間発表会の案内なども載せている。)

4月・2月に全学級が算数の授業参観を行い、フロンティア校の取組を伝え、保護者の理解を得られるようにしている。

平成16年2月に、保護者・地域を主な対象者として、中間発表会を行う。

平成16年12月に、3年次の研究のまとめの発表会を行う。

<http://www.tcn-catv.ne.jp/~kagomachi-ps/>

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input checked="" type="checkbox"/> 6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	T Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	<input checked="" type="checkbox"/> 算数	理科	
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善】	有	無		